

「新美南吉ゆかりの地を歩く」

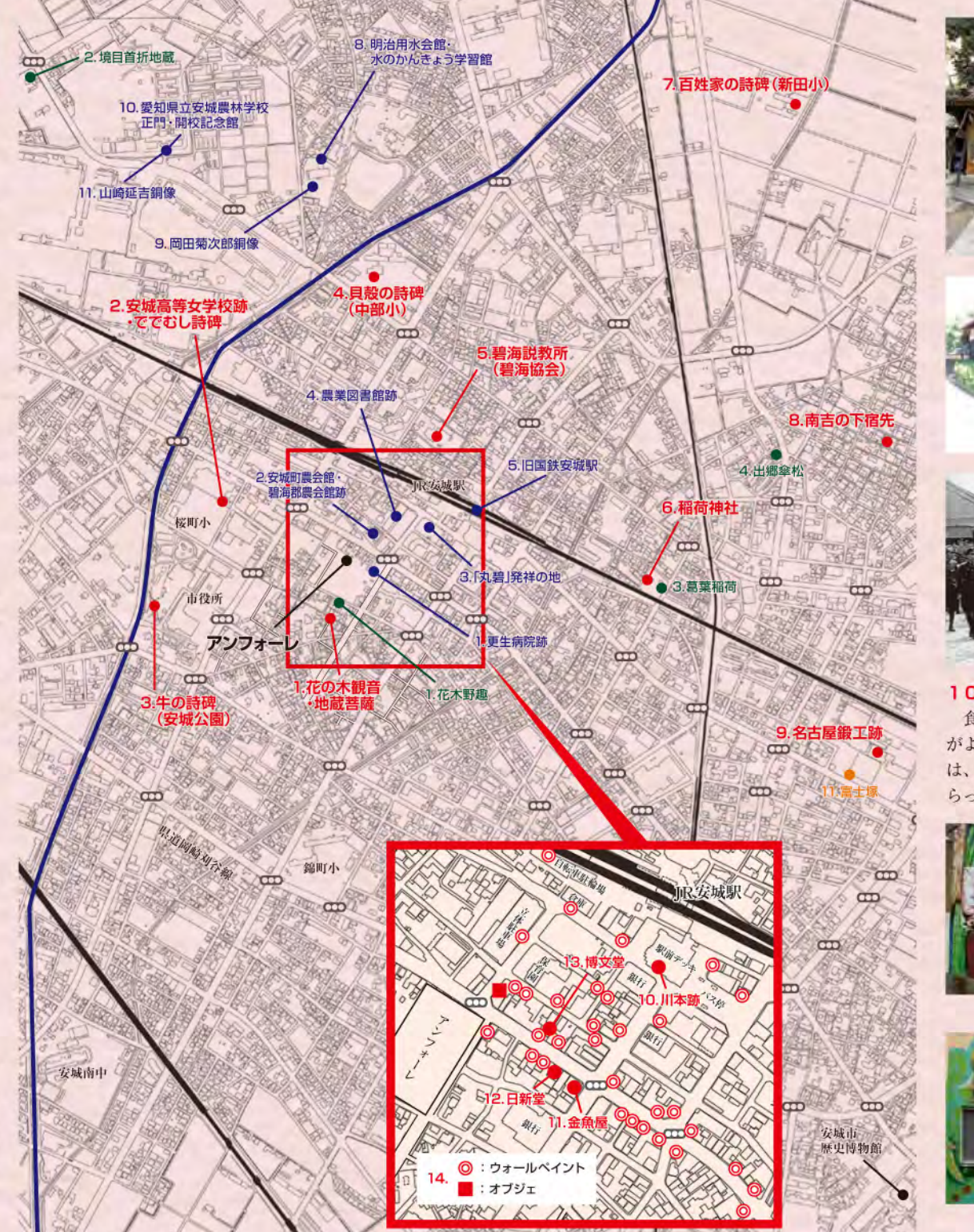
大正2年(1913)、知多郡半田町(現半田市)生れの童話作家。本名、正八。幼くして母を失い、養子に出されるなど厳しい幼少期を送った。冠冠18歳で「ごんざつね」を世に出す。東京外国語学校(現東京外国語大学)英語部文科卒業後、昭和13年(1938)、24歳の時に愛知県立安城高等学校(現県立安城高等学校)に教師として赴任し、英語や国語、農業を担当した。特に作文や詩の指導に熱心だったという。翌年4月からは現安城市新田町で下宿を始め、教師のかたわら創作活動に励んだ。安城時代は心身ともに充実した時期で、単行本「良寛物語 手紙と鉢の」、童話集「おちいさんのランプ」を出版した。昭和18年(1943)、喉頭結核の悪化により死去。享年29。

1. 花の木観音・地藏菩薩
日本デนมマークと呼ばれた時代、多くの地方出身者が転入してきたが、亡くなくても縁者がわからない場合があった。この観音像は、そうした霊を弔うため建立された。南吉の「花のき村と笠人たち」には、盗賊の頭が改心するきっかけを作った「小さい地藏さん」が登場するが、モデルは観音の境内にあった地藏像だったといわれている。

2. 安城高等女学校跡・ででむし詩碑
大正10年(1921)年、安城町の女学校として設立され、大正12年(1923)からは愛知県へ移管され県立となった。ここで学ぶのは、現在の中学生～高校1年生に相当する。戦後の昭和23年(1948)、南吉の教えを受けた卒業生や元同僚の教員たちが中心となり、南吉を偲ぶ「ででむし詩碑」を設けた。
正八 まれいでて 舞ふ鳩半の 触寛のごと
げくの音に 驚かむ 風の光に ほめくし
花も匂は 酔ひしれむ

3. 牛の詩碑(安城公園)
牛は重いものを曳くので 地はたをにらんで歩く
牛は重いものを曳くので 首を垂れて歩く

4. 貝殻の詩碑(中部小)
かなしいとは 貝殻鳴らす
二つ合わせて息吹をこめて 静かにならせ 貝殻を



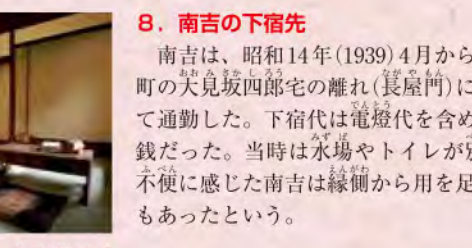
6. 稲荷神社
安城八景のひとつで、狐が4本の松を伐採せぬよう頼んだ伝説がある。南吉は「四本木狐が住屋へたのみに来て、四本の木をのこしてもらった。開塾中に」と記している。



10. 川本跡
食事は外食だった南吉がよく通った食堂。昼食は、弁当を配達してもらっていた。



7. 百姓家の詩碑(新田小)
おきよ この百姓家から もれてくるハモニカを 誰かが風呂にはいりながら ハモニカを吹いてゐるのだから 湯氣にもった硝子壺に 小さいカンテラの灯が見えるだろう ああ灯の下で ちゃぶちゃぶやうながら 吹いているのだ



9. 名古屋鍛工跡
名古屋鍛工は、昭和18年(1943)、軍需工場として発足。同年10月からは、安城高等女学校の南吉の教え子たちが学徒動員労働員に派遣された(この時、南吉は既に逝去)。生徒たちには、軍事教練も行われた。現コロナワールド。

11. 金魚屋
昭和14年(1939)、南吉はここで干柿60個を買って、大阪へ送っている。



8. 南吉の下宿先
南吉は、昭和14年(1939)4月から現新田町の犬見坂四郎宅の離れ(長屋門)に下宿して通学した。下宿代は電燈代を含め2円90銭だった。当時は水場やトイレが別棟で、不便に感じた南吉は緑帯から用を足すこともあったという。



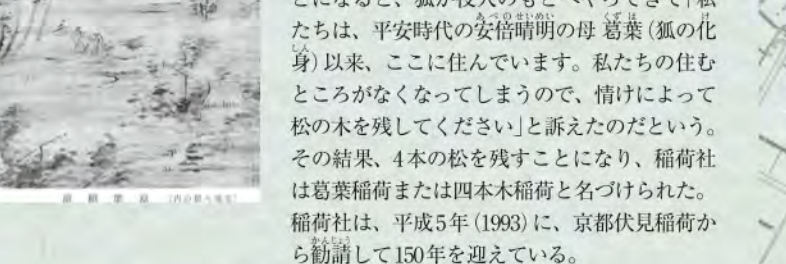
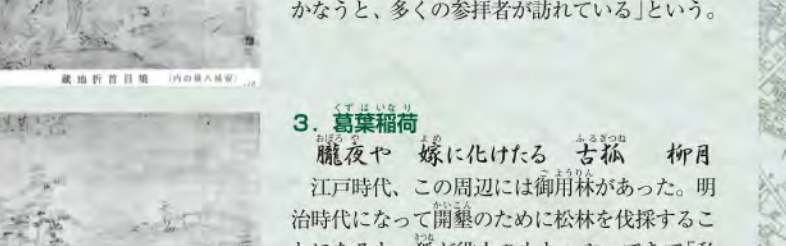
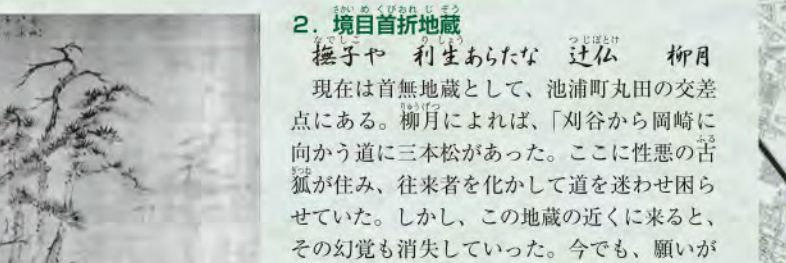
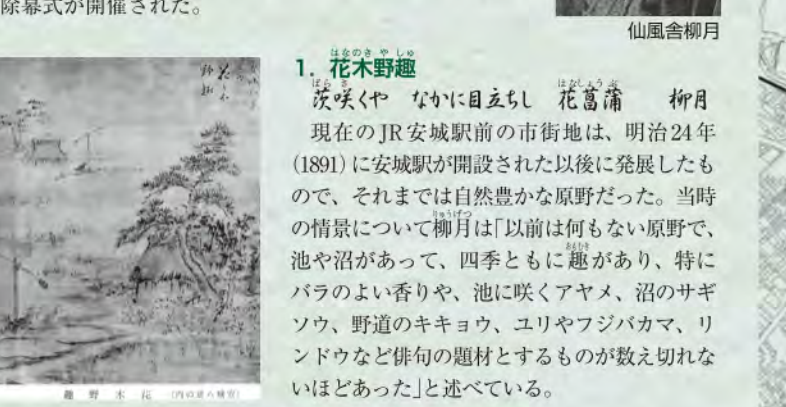
12. 日新堂
昭和14年(1939)、南吉は御用林を借りた義理から、新潮文庫を一冊買っている。

13. 博文堂
南吉が文具を買った。昭和15年(1940)、日新堂で売切れた雑誌も購入している。

14. 南吉ウォールペイント・オブジェ
南吉が青春を過ごしたまちである安城は、彼が通学に歩いた現在のJR安城駅前に、南吉の童話作品をモチーフにしたウォールペイントなどを設けている。まち歩きをすると、あちこちで小さな発見をすることができる。



「安城八景を歩く」
安城八景とは、現安城町東尾地区に生れた俳人仙風香柳月(本名：鈴木平兵衛)が、自身の80歳を記念して選定した安城が原の原風景のこと。選定された昭和7年(1932)ころの安城は、既に日本デนมマークとして急速に発展した後で、柳月は自身がまだ若かった当時の、開塾前の風景の記憶をもとに句を読み、画を残した。句碑第1号として、日本デนมマークの象徴的建物のひとつである安城町農会館・碧海郡農会館の前に、門人たち(中碧社、嘉の恵会)が中心となって「花木野趣」碑が建立され、昭和11年(1936)6月14日に盛大な除幕式が開催された。



1. 花木野趣
茨咲くや なりに目立し 花富蒲 柳月
現在のJR安城駅前の市街地は、明治24年(1891)に安城駅が開業された以後に発展したもので、それまでは自然豊かな原野だった。当時の情景について柳月は「以前は何もない原野で、池や沼があって、四季ともに趣があり、特にバラのよい香りや、池に咲くアヤメ、沼のサギソウ、野道のキキョウ、ユリやフジバカマ、リンドウなど俳句の題材とするものが数え切れないほどあった」と述べている。

2. 境目首折地蔵
撫子や 利生あらたな 辻仏 柳月
現在は首無地蔵として、池浦町丸田の交差点にある。柳月によれば、「刈谷から岡崎に向かう道に三本松があった。ここに生悪の古狐が住み、往来者を化かして道を迷わせせていた。しかし、この地蔵の近くに来ると、その幻覚も消失していった。今でも、願いがかなうと、多くの参拝者が訪れている」という。

3. 葛葉稲荷
瀬夜や 嫁に化けたる 古狐 柳月
江戸時代、この周辺には御用林があった。明治時代になって開墾のために松林を伐採することになると、狐が役人のもとへやってきて「私たちは、平安時代の安倍晴明の母 葛葉(狐の化身)以来、ここに住んでいます。私たちの住むところがなくなってしまうので、情けによって松の木を残してください」と訴えたのだという。その結果、4本の松を残すことになり、稲荷社は葛葉稲荷または四本木稲荷と名づけられた。稲荷社は、平成5年(1993)に、京都伏見稲荷から勧請して150年を迎えている。

4. 出郷傘松
柳月によれば、かつて「木の形が傘のようだというだけでなく、往来の人々がかき雨の際に、急いで雨宿りすることから名付けられた」松の大本があったという。その傍らにある地蔵尊については、「子宝に恵まれ、子どもは丈夫な体を授かり、健やかに成長する」ご利益があるとされた。松はいつの時代か失われ、地蔵尊も昭和55年(1980)に区画整理事業によって位置を変えたが、現在でも厚く信仰されている。

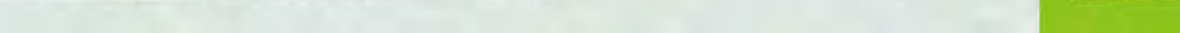
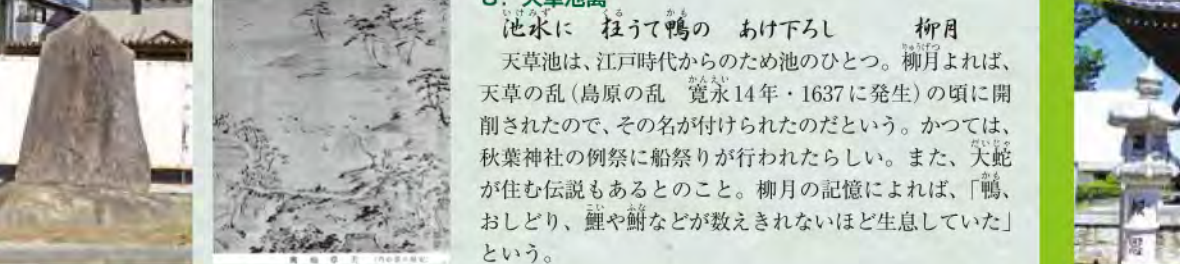
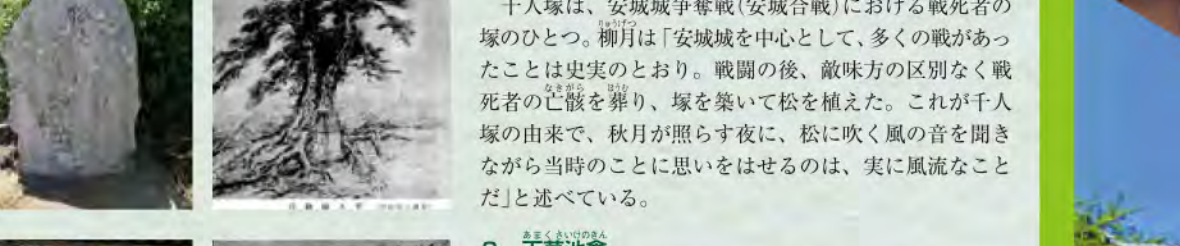
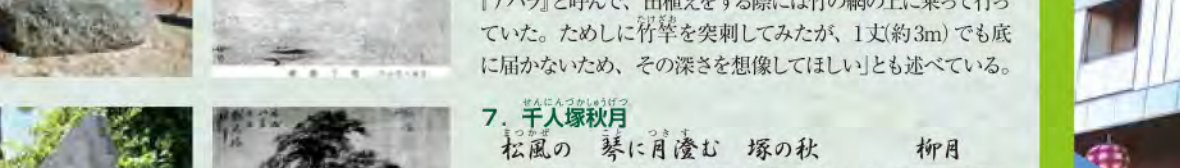
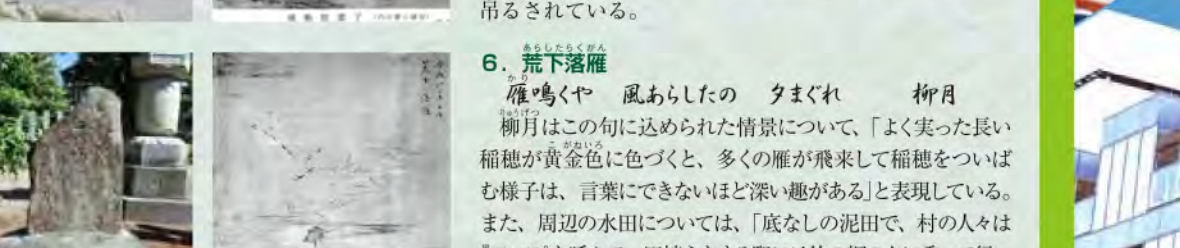
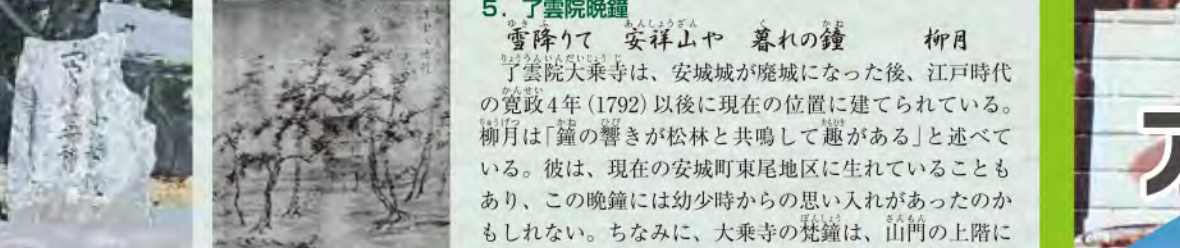
5. 了雲院晚鐘
雪降りて 安祥山や 暮れの鐘 柳月
了雲院大乗寺は、安城城が廃城になった後、江戸時代の寛政4年(1792)以後に現在の位置に建てられている。柳月は「鐘の響きが松林と共鳴して趣がある」と述べている。彼は、現在の安城町東尾地区に生れていることもあり、この晩鐘には幼少時からの思い出があったのかもしれない。ちなみに、大乗寺の梵鐘は、山門の上階に吊るされている。

6. 荒下落雁
雁鳴くや 風あらしの 夕まぐれ 柳月
柳月はこの句に込められた情景について、「よく突っ長い稲穂が黄金色に色づく、多くの雁が飛来して稲穂をついばむ様子は、言葉にできないほど深い趣がある」と表現している。また、周辺の水田については、「底なりの泥田で、村の人々は『アハ』と呼んで、田植えをする際には竹の網の上に乗っていた。ために竹竿を突刺してみたが、1丈(約3m)でも底に届かないため、その深さを想像してほしい」とも述べている。

7. 千人塚秋月
松風の 琴に月燈む 塚の秋 柳月
千人塚は、安城戦争(安城合戦)における戦死者の塚のひとつ。柳月は「安城城を中心として、多くの戦があったことは史実のとおり。戦後の、敵味方の区別なく戦死者の亡霊を葬り、塚を築いて松を植えた。これが千人塚の由来で、秋月が照らす夜に、松に吹く風の音を聞きながら当時のことに思いをはせるのは、実に風流なことだ」と述べている。

8. 天草池禽
池水に 拉うて鴨の あけろし 柳月
天草池は、江戸時代からのため池のひとつ。柳月によれば、天草の乱(高原の乱 寛永14年・1637に発生)の頃に開墾されたので、その名が付けられたのだという。かつては、秋葉神社の例祭に船祭りが行われたらしい。また、天蛇が住む伝説もあるとのこと。柳月の記憶によれば、「鴨、おしどり、鵜や鯛などが数えきれないほど生息していた」という。

9. 名古屋鍛工跡
名古屋鍛工は、昭和18年(1943)、軍需工場として発足。同年10月からは、安城高等女学校の南吉の教え子たちが学徒動員労働員に派遣された(この時、南吉は既に逝去)。生徒たちには、軍事教練も行われた。現コロナワールド。



歴史の散歩道
アンフォーレウォーク
ガイドマップ

安城市教育委員会

「安城城争奪戦(安城合戦)の古戦場を歩く」

安城城争奪戦(安城合戦)とは

- 天文9年(1540)から18年(1549)にかけて、松平と織田の間で大きく3度、安城城を奪い合った戦い。
- 第1次 天文9年(1540)、尾張の織田信秀(信長の父)が、松平長家が城主を務める安城城を攻め取った。この時、長家をはじめ多数の松平勢が戦死し、富士塚、東条塚、千人塚が設けられたとされる。
- 第2次 天文14年(1545)、岡崎の松平広忠(家康の父)は安城城の奪還に挑むが失敗。この時の主戦場は、勢井殿(清瀬・現在の南部小学校付近)だったとされる。本多忠勝が、主君広忠の身代わりとなって戦死した。
- 第3次 天文18年(1549)、松平広忠が暗殺されると、松平勢は今川義元の軍勢とともに安城城の奪還を図った。この戦いで本多忠高が戦死した。8か月におよぶ攻めの末、松平・今川連合軍は城を奪い返し、織田信長(信長の兄)を捕らえることに成功。「西野」において、信広と織田の人質だった竹千代(後の徳川家康)の交換を果たし、10年にわたる戦いは終結した。

1. 安城城跡(安祥城址)
 岩津城主の松平信光が、文明年間(1469~87)に奪取。信光は、「西野」で備りを催し、城の兵の注意をそらした隙に攻めたと伝えられる。以後、清康(家康の祖父)まで4代にわたり松平総領家が置かれた。安城八景のひとつ。

3. 七ツ井(筒井)
 安城城周辺にあった7つの井戸。特に筒井の水は良質で、第3次合戦後、岡崎に戻る竹千代が「この水を竹筒に入れて持ち帰りたい」と所望したことが名前の由来とされる。

5. 本多忠勝墓碑
 第2次合戦で本多忠勝(忠勝の祖父)の戦死した場所。墓碑は、子孫の岡崎藩主本多忠勝によって寛政6年(1794)に設けられている。

7. 山崎城址
 第1次合戦後の天文12年(1543)、織田勢に通じた松平信孝(広忠の叔父)が築城。現在の山崎神明社は、土塁の上に建ち、背後には堀の一部が残る。

8. 明治用水会館・水のかんきょう学習館
7. 百姓家の詩碑(新田小)
4. 貝殿の詩碑(中部小)
5. 碧海説教所(碧海協会)
1. 更生病院跡
2. 本多忠高墓碑
3. 「丸碧」発祥の地
1. 花の木観音・地藏菩薩
1. 花の木野趣
1. 更生病院跡
3. 葛葉稲荷
4. 出郷傘松
6. 稲荷神社
9. 高木氏発祥の地
10. 大岡白山神社

2. 本多忠高墓碑
 第3次合戦で本多忠高(忠勝の父)の戦死した場所。墓碑は、子孫の岡崎藩主本多忠勝によって寛政9年(1797)に設けられている。

4. 安城市市場
 エビス石・大黒石と呼ばれる2つの自然石が、市場の守護神としてまつられている。写真は秋葉公園。

6. 上条白山姫神社
 慶長8年(1603)、将軍となった徳川家康は、社領50石を寄進するとともに、神宮寺である神光寺を開いた米津盛門を祭祀にあたらせた。

8. 保科正直邸址
 保科正直は、徳川家康の妹婿。天文12~18年(1584~90)に館を置いたとされる。その後、家康の関東移封に従って下総国(現千葉県)へ転出した。

9. 高木氏発祥の地
 永禄6年(1563)の三河一向一揆で功績のあった高木清秀が、屋敷を構えたとされる。天文18年(1590)、家康の関東移封に従い、この地を離れた。

11. 富士塚
 第1次合戦では、この周囲が激戦地となり、多数の戦死者が出た。その戦死者を弔うために作られたという。現在でも戦闘のあった6月6日には供養が行われている。

13. 「西野」
 第3次合戦後、織田信広と竹千代の交換が行われた場所。「西野」とは広範囲な地域を指し、実際には諸説がある。写真は秋葉公園。

15. 東条塚
 第1次合戦で戦死した松平康忠(安城城主家康の甥・東条松平)を葬った場所に作った塚と伝えられる。

17. 善恵坊の碑
 善恵坊は、第2次合戦の際、長刀を手に奮戦し、織田軍の銃撃を受けたが倒れることなく敵をにらみつけたまま戦死したとされる。

10. 大岡白山神社本殿
 天文2年(1533)に松平清康(家康の祖父)が造営。しかし、第1次合戦で織田勢により焼失。永禄10年(1567)に家康によって再建された。安城市内最古の建造物。

12. 安城古城址
 平安時代に志賀荘の荘館があったとされる。戦国時代には松平氏が兵をいれ、安城城争奪戦の舞台ともなっと考えられる。発掘調査によって土塁の一部が発見された。

14. 鷲井殿(清瀬)
 第2次合戦の主戦場。松平広忠は、南方から攻め入り、安城城と安城古城とを分断して、北方を確保する作戦だったと考えられる。写真は安城南小。

16. 千人塚
 第1次合戦で戦死した松平康忠の家臣たちを葬った塚と伝えられる。安城八景のひとつ。

18. 姫塚
 尾張の織田信秀(信長の父)と松平家の安城城争奪戦で、亡くなった女性を葬ったと伝えられている。

「日本デンマークゆかりの地を歩く」
「日本デンマーク」とは
 安城を中心とした碧海郡一帯は、大正時代から昭和初期にかけて、先進的な農業地帯として全国的に注目をあびた。その内容は単に農業振興にとどまらず、教育や福祉分野にもおよぶ総合的地域振興政策だった。この一連の活動により、当時の代表的な農業国家デンマークになぞらえて「日本デンマーク」と呼ばれた。その理由として、次の4点がある。

- ① 産業組合(碧海郡購買販売組合連合会「丸碧」)による共同化や、米作と養鶏、果樹・野菜栽培などを組合せた多角経営(「多角形農業」)などの新しい農業のありかた。
- ② 県立農林学校や農業補習教育に代表される農業教育・農村教育の普及。
- ③ 明治用水により、「安城が原」と呼ばれた荒野を豊かな農業地帯にしたという歴史。
- ④ 丸碧更生病院の経営という福祉分野への投資。

1. 更生病院跡
 昭和10年(1935)、「丸碧」により設立。当時、郡内唯一の総合病院で、組合員(農家)の診療費は低く抑えられていた。組合の利益を福祉へ投資する理想は、「日本デンマークの華」と呼ばれた。命名は山崎延吉による。跡地は、図書情報館アンフォーレとなっている。

2. 安城町農会館・碧海郡農会館跡
 安城町農会は、新しい農業の普及と農家の風紀矯正を目的とし、昭和2年(1927)に農会(農会館)が建設された。碧海郡農会館は昭和9年(1934)に建設され、両建物が並んだ様子は社で、「農都安城」を強く印象づけた。跡地は、JAあいち中央本店となっている。

3. 「丸碧」発祥の地
 大正4年(1915)に郡内の34の産業組合が連合して設立、この地に事務所棟が建設された。日本デンマークを象徴する組織で、現在のJAあいち中央の前身。

4. 農業図書館跡
 昭和6年(1931)、農業知識の啓蒙と教養の向上を目的に、安城町農会が設立。昭和8年(1933)には、青年を中心とした読書組合が設立され、輪読会等が行われた。

7. 明治用水普通水利組合事務所跡
 明治用水は、灌漑地の農民を会員とした組合によって運営された。その事務所は、大正4年(1915)に洋風建物として建築された。跡地は、安城市文化センターとなっている。

8. 明治用水会館・水のかんきょう学習館(明治用水土地改良区)
 昭和42年(1967)に、明治用水普通水利組合事務所を現地に移転させた。併設の水のかんきょう学習館は、水と農業や食について楽しく学ぶ機会を提供している。月曜休館。

9. 岡田菊次郎銅像
 岡田菊次郎(1837~1932)は、安城町長として愛知県立農林学校や農事試験場を誘致するなど、日本デンマークの基盤整備に貢献した。明治用水土地改良区の初代理事長。

11. 山崎延吉銅像
 山崎延吉(1873~1954)は、愛知県立農林学校の初代校長で日本デンマークの理論的指導者。日本デンマークを支えたのは、彼の教え子たちである。

12. 愛知県立農事試験場
 大正9年(1920)に清洲から移転。品種の試験研究とともに農家の指導や教育普及を担った。稲の品種改良では、岩槻信治を中心に目覚ましい成果をあげた。

14. 東尾産業組合事務所・農業倉庫・共同利用工場
 東尾産業組合は、大正9年(1920)に設立。組合事務所(現東尾町内会事務所)は、大正13年(1924)に建築。当初は、1階が融資や貯金、物品販売の店舗、2階が碾ききの集会所だった。農業倉庫は、昭和10年(1935)に建築。米穀の保管だけでなく、くん蒸も同時に行った。共同利用工場(現東尾公民館)は、昭和10年代に建築され、農産物の加工や出荷のための作業が行われていた。いずれも数少ない日本デンマーク時代の建物で、この3点がそろうて残っている事例は他にない。



安城市歴史博物館・安城市埋蔵文化財センター

- 開館時間 AM9:00~PM5:00 (入館時間PM4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館) 年末・年始(12/28~1/4)
- 歴史博物館観覧料 【常設展】一般：200円
- 【特別展】一般：400円程度 ※常設展も観覧可 ※中学生以下は無料 ※団体(20人以上)、障害者は割引有り。

〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
 歴史博物館 TEL 0566-77-6655 FAX 0566-77-6600
 埋蔵文化財センター TEL 0566-77-4490 FAX 0566-77-6600
 URL <http://www.city.anjo.aichi.jp>